

令和2年度「授業改善推進プラン」の取り組みについて

大田区立東六郷小学校

【①国語】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ どの項目に対しても目標値より上、または目標値と同じぐらいの成績を取ることができた。
- ・ 国語の基礎項目もどの学年も目標値より上回る成績を取ることができた。
- ・ 問題解決的な学習の充実や教材の工夫により、国語に対する興味関心が高まってきている。
- ・ 話し合い活動などの取り組みにより、話の中心に気を付けて聞いたり、発表の内容を相手の意図に気を付けて聞いたりすることができるようになってきている。
- ・ 日々の授業や宿題で自分の考えを書く活動を多く取り入れたり、文を書く際の手順や型を確認して学習したりしているため、文を書く力がつき、作文が書けるようになってきた。

(2) 課題

- ・ 活用の部分では、思考・判断力や表現力で目標スコアより下回る結果が出ている。
- ・ 資料や他の例（パンフレット、話し合いを基にするなど）と関連付けて考えることが苦手な傾向がある。
- ・ 言語について、漢字の書きに課題が残る。
- ・ 高学年では伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に課題が残る。
- ・ 読む能力に関しても高学年には課題が残る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第4学年	標準スコアを僅かに上回っている。		
第5学年	標準スコアを僅かに下回っている。	標準スコアを上回っている。(第4学年時)	
第6学年	標準スコアを僅かに下回っている。	標準スコアを下回っている。(第5学年時)	標準スコアを下回っている。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 国語辞典の使い方やローマ字など言語学習について目標値を下回っている。	・ 作文については概ねできている。話の中心に気を付けて聞き、調べた結果の表をもとに文章を書くことができる。 ・ 物語と説明文の読み取りは目標値と同程度である。作文についても、目標値を上回っている	・ 進んで書くことができるようになってきている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・漢字の読みは概ね良くできており、どちらも目標値を上回っている。語彙力は児童間の差が大きい。</p>	<p>・作文は比較的良好にできている。しかし、話し合いや資料をもとにして、内容を書き出す力は目標値をやや下回っている。</p> <p>・6年生は登場人物の気持ちを読み取ることに課題がある。5年生は説明文の内容を読み取ることに課題がある。</p>	<p>・自分なりの考えを、自分の言葉でまとめて書こうという姿勢をもつことができるようになってきた。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・平仮名・片仮名・漢字の読み書きを確実に身に付けられるよう繰り返して練習させる。</p>	<p>・児童の実態に応じた手本文を用意し、モデルを示す。</p> <p>・ICTを活用し、時間的な順序や場面の様子を考えながら書かせる。</p> <p>・物語文では、場面の様子や登場人物の行動の変化に着目させ、様子や気持ちを考えながら読ませる。</p> <p>・説明文では、問い、答えを意識して読ませる。</p>	<p>・声に出して読んだり動作を入れたりしながら、身近なこととして文章の内容を理解させる。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・知らない言葉に出会った時に、辞書を引く機会作り、身に付けさせる。</p> <p>・主語と述語との関係、修飾語と被修飾語の関係に注意し、文の構成について初歩的な理解をもたせる。</p>	<p>・文章の構成を意識して書くために、「はじめ・中・終わり」と各段落の内容を、構成メモを使ってまとめさせる。</p> <p>・中心をはっきりさせて、文章構成を意識しながら正しく書かせる。</p> <p>・説明文では、段落や前後の文章、中心となる語や文章に、傍線を引いてつながりを意識して読ませる。</p> <p>・資料や表をもとに、文章を書いたり説明したりする活動を積極的に取り入れる。</p>	<p>・物語の世界に浸ったり、自分の経験を想起させたりして筆者の考えを理解しようとする等、身近なものを導入部で取り入れるなど工夫をする。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・主語、述語、修飾語などを意識して読み書きを行い、基本的な理解を徹底させる。 ・習った漢字を文や文章の中で使うよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を的確に押さえ、自分の意見と理由を区別しながら書かせる。 ・自分の意見と関連付けながら資料を読み取らせる。 ・読み取った内容や文章表現に対して、傍線を引いて分ごとのつながりを意識させ、自分の意見をまとめる学習を行う。 ・資料の読み取り方やそこから考えるべきことの観点を押さえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に理解できるような教材を多く提示する。また、自分の考えをもつだけでなく、友達の考えを聞き交流する場面を持たせることで、多様な考えと比較してより理解が深まることを実感させる。

【②社会】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度に引き続き意欲をもって調べ学習を行う姿が、よく見られた。
- ・**地図を活用したことで、特徴や位置関係、地図記号などの定着が見られた。**

(2) 課題

- ・**歴史学習では知識の定着が弱い。**
- ・**歴史学習では自分事として考える力が弱い。**
- ・資料を読み取り、考察して**自分の言葉**でまとめる力が弱い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第4学年	標準スコアを僅かに下回った。		
第5学年	標準スコアを僅かに上回った。	標準スコアを僅かに下回った。 (第4学年時)	
第6学年	標準スコアを下回った。	標準スコアを僅かに下回った。 (第5学年時)	標準スコアを僅かに下回った。 (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を 僅かに 上回っている。教室や廊下掲示を充実させ、常に社会的事象に児童がふれていられる環境を整えた。	目標値を 僅かに 上回っている。学習したことを生かして地図に書き込んだり、まとめたりできてきた。 地図に色を塗ったり、細かく読み取ったりする活動を充実させた成果が表れている。	目標値を 僅かに 上回っている。自分から習っていることを確かめに行ったり、調べたりする姿が多かった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に対して、 5年生は上回っているが、6年生は下回っている 。基本的な知識の定着に課題がある。	目標値に対して、 5年生は僅かに上回っているが、6年生は僅かに下回っている 。社会的事象に対して、自分の考えをもつことが苦手な児童が多い。 6年生は、文章や資料を読み取り考察する力に課題がある 。	目標値に対して、 5年生は上回っているが、6年生は下回っている 。歴史学習を身近に感じる事が難しくなっている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
都道府県や地図記号は定着するまで何度も確認する。授業で出てきた重要語句は、時間が経ったらまた確認して定着を図る。	資料を読み取り、そこからどのようなことがわかったか、またどのようなことを考えたかを文章にまとめる活動を充実させる。 資料の数値を正確に読み取るだけでなく、 比較するなどの見方を身に付けさせていく 。	見通しをもった学習問題、学習計画を立てることを徹底する。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書、資料集に書かれている文章や図、グラフなどを繰り返し正確に読ませしていく 。また単元の中心となることからは教室掲示し、確実な定着を図る。	資料を読み取り、そこからどのようなことがわかったか、またどのようなことを考えたかを文章にまとめる活動を充実させる。 グラフの上がり下がりや多	見通しをもった学習問題、学習計画を立てることを徹底する。 自分事として事象を捉えられるように、身近にあるものを活用するなど、導入を工夫する 。

	い、少ないなど読み取り、特徴をつかませる。また複数の資料を関連付ける時は、その共通点や相違点を丁寧に確認していく。	
--	---	--

【③算数】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習課題を明示し、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにすることで、主体的に課題に取り組もうとする姿が多く見られるようになった。
- ・問題の題意を正しくとらえるため、**既習の学習を想起させたり**、問題文の数や演算決定のキーワードになる言葉にラインや印を付けたりしながら問題を解くことを継続的に行うことで、正しく立式できる児童が増えた。

(2) 課題

- ・昨年度に引き続き算数科における基礎・基本の確実な定着のため、既習事項の振り返り、繰り返し練習、ICTの効果的な活用による学習を積み重ね、児童の理解を高められるようにする。
- ・自力解決後の、ポイントを明確にして児童が対話したり考えを発表したりする場面を取り入れ、自らの考え方を広げたり深めたりできるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第4学年	教科全体で見ると、標準スコアとほぼ同等である。		
第5学年	「数量関係」、「数学的な考え方」、「図形」以外は標準スコアを下回っている。	各領域において標準スコアを上回ることができている。(第4学年時)	
第6学年	全ての領域で標準スコアを大きく下回っている。	全ての領域で標準スコアを大きく下回っている。全国平均を下回っている。(第5学年時)	「数量や図形についての知識・理解」を除き、標準スコアを下回っている。(第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数量や図形についての知識、技能とともに身につけている児童が多く、目標値を上回っている。	問題の題意をとらえて、正しく立式することができる児童は多く見られている。	与えられた課題に対し、熱心に取り組む児童が多い。さらに難易度が高い問いにも関心をもって取り組めるようになるとうい。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算の仕方を身につけている児童が多いが、既習事項が定着していない児童も決して少なくは無い。次の単元が始まると習ったことを忘れてしまい、積み重なっていかない様子が見られる。	題意をとらえて、正しく立式をしたり、2つの数の関係を説明したりすることができる児童が多く見られ、目標値を上回っている。	意欲的に取り組める児童が多いが、苦手意識が強く、意欲的になれない児童も見られる。新たな問題に進んで挑戦する姿勢があるとよい。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数の概念、基本的な計算の型を確実に身につけられるよう、授業の導入で計算カードなどを使い、反復練習を行う。	問題文の大切な所に印をつけ、題意を正確に把握できるようにする。自分の考えを伝え合う活動を通して、考えを広げたり深めたりする。	具体物や半具体物を用いた操作活動を多く取り入れることで、児童が関心をもって課題に取り組めるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具体物や図・ICTを活用して説明する活動、式と関連づけて説明する活動を十分に取り入れ、正しく理解し、知識を定着させられるようにする。	既習事項を基にして新たな学習に活用することができるよう、既習事項の振り返りを行う。児童が考えを伝え合う活動を設け、自らの考えを広げ、深められるようにする。	日常生活に関連づけた課題、実際の数量を確かめる体験活動により、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具体物や既習事項を活用し、多様な考え方を理解し合うこと、ICT機器を効果的に	計算や図形の弁別など、根拠をもって、解き方や考え方を説明することができるよう	自分の生活との関連他教科や既習事項との関連を踏まえながら、児童が見通しをも

活用することで、計算処理力や図形弁別力を伸ばしているようにする。	な場面を設ける。ICTを活用し、考え方を共有する。	って、主体的に学習に取り組めるようにする。
----------------------------------	---------------------------	-----------------------

【④理科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体験的な学習を積極的に取り入れたことで、意欲につながった。
- ・繰り返し実験を行うことで、正しい実験方法を理解し、目標値より高い学年も見られた。

(2) 課題

- ・図やグラフ等を活用した表現への理解が不十分である。
- ・実験器具の使い方や名称など、普段から使い慣れていないものに対する関心が低い。
- ・実験の意味や方法についての理解が不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第4学年	標準スコアを下回っている。		
第5学年	標準スコアを下回っている。	標準スコアを上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	標準スコアを下回っている。	標準スコアとほぼ同じ。 (第5学年時)	標準スコアを僅かに下回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験や観察で使用する器具の正しい使い方については定着に課題がある。(虫眼鏡) 全体的に平均を下回る。生命・地球の領域について定着に課題がある。	観察をしたことをもとにして考える学習を苦手としている傾向がある。	実験に対する関心は高いが、観察に対する関心は低い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験で使用する器具の正し	自然の事物や現象の変化に	観察に対する関心は低い。実

い使い方についての理解に課題がある。(温度計・豆電球) 生命・地球の領域の領域が弱い傾向がある。	関する学習を苦手としている傾向がある。	験に対しては意欲的に取り組んでいる。
--	---------------------	--------------------

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
まとめの時間を取り入れ、考察やわかったことを自分の言葉でまとめさせ、全体で確認し合うようにする。観察をする際に、実験器具の正しい使用方法を確認するようにする。	対称を比べられるような観察や実験を通した学習活動を取り入れる。	自然に親しみながら継続的・持続的な直接体験を繰り返して積み重ねる学習活動を取り入れる。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習したことをより発展させて調べ、多くの知識を身につけられるような体験学習を取り入れる。観察や実験の技能をできるだけ高めるための記録の仕方(グラフや図等の活用)や見通しをもった実験を積み重ねる学習活動を取り入れる。	実験の前に、その実験の合わせる条件を個人で予想した後、全体で確認し、実験を行うことで見通しをもった学習活動を取り入れる。	自然の不思議さを自ら対象に働きかけながら結果を追及する学習活動を取り入れる。

【⑤生活科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・児童一人一人が、願いや思いをもち、植物を育てる活動を通して、生長の様子を捉え確かな実りを実感することができた。
- ・生活科見学で、身近な自然に触れ合うことができた。(どんぐり拾いなど)
- ・町探検活動を通し、まちの人と触れ合い、自分の居場所をつくることができた。また、同時に地域を大切にしたいとの気持ちを持たせることができた。
- ・1・2年生の交流学習を持つことにより、互いに学び成長することができた。

(2) 課題

- ・四季の変化や季節を感じて、活動する。
- ・自然を利用した遊びや自然の不思議を感じ楽しむ活動を積極的に行う。
- ・公共物や公共施設を利用し、児童の生活に生かす。また、自分以外の人のことを考えて行動する体験を積ませる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・季節を十分に感じられるような活動を多く経験させる。・生命及び自然に対する興味や愛情を認め、さらに生命や自然に対する思考に至るような活動や言葉かけを工夫していく。・自分自身を見つめる機会を通して、自分の生活や成長には身近な人々の支えがあることに気付く。	<ul style="list-style-type: none">・多様な児童の発言やしぐさを丁寧に見とるようにする。児童と同じ目線で活動を見守り、指導していく。様々な人との関わりを多くとる。・自分が思ったことを伝え合う時間を十分にとる。また思ったことを表す手段は様々に認め、児童が表現していけるよう支援していく。	<ul style="list-style-type: none">・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物に目を向け地域との関わりをもてる活動を設定する。それによって社会の一員としての安全で適切な行動をしようとする態度を育てる。・日常的に動植物にふれる機会をもてるよう工夫する。それにより生命及び自然に対する思考にいたるよう言葉かけをしていく。・自分の願いや思いをもち活動させ、学習に対する意欲を更にもたせる。・グループ活動は、話し合う活動を十分にとり、友達と気付きを比較したり、再思考したりして新たな活動を考えさせる。また活動から気付いたことや感じたことを発表する時間を設け、教師や友達が認めたり褒めたりする機会を多くとるようにする。

【⑥音楽】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・鑑賞活動において、曲想から感じ取った音楽の良さを、音楽的要素と関連付けて考え、記述できる児童が増えた。
- ・全体的に学習意欲が高まっている。

(2) 課題

- ・ リコーダーのタンギングなど、表現を工夫する活動へつなげるために基礎的な能力を高めていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な楽器に触れる機会を増やし、音色に気を付けながら簡単なリズムや楽器の奏法を学べるようにする。	・曲想にふさわしい表現を自分なりに考え、表現活動に生かすことができる授業を展開する。	・すすんで音楽に関わり、楽しみながら曲を聴いたり演奏をしたりできるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な楽器に触れる機会を増やし、表現の工夫に繋げるための基礎的な能力を高めていく。	・曲想にふさわしい表現を自分なりに考え、表現活動に生かすことができる授業を展開する。	・すすんで音楽に関わり、感じたことや気が付いたことを伝えることができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。	・曲想にふさわしい表現を自分なりに考え、表現活動に生かすことができる授業を展開する。	・すすんで音楽に関わり、感じたことや気が付いたことを根拠をもって伝えることができるようにする。

【⑦図画工作】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・図画工作における学習ルールが定着してきた。
- ・児童が自発的に教え教わる、学び合いの場面が増えてきた。
- ・鑑賞の場面では、積極的に発言・表現しようとする児童が増えてきた。

(2) 課題

- ・表したいことを思いつくまではできるが、表現を深めていくには至らない。
- ・複合的な題材では、既習事項を生かし切れていない場面が見受けられる。経験不足を補うための用具・道具の習練がさらに必要である。
- ・描くため、作るための見通しを持つことが難しい児童が目立つ。まず何から始めたらいいか、次に何をしたらいいのか、どこまでやったら完成なのか、イメージできる力を身に付けさせる必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手や体全体の感覚や技能を働かせてつくる活動を多く設定し、身近な材料や扱いやすい用具で色や形を試しながら、経験的に技法を身につけさせていく。	感じたことや想像したことから、表したいことやつくりたいものを見つけて表せるよう、造形遊びの中で楽しみながら試していく活動を多く取り入れる。	進んで表したり見たりして造形活動を楽しめるよう、親しみやすく身近にある多種多様な材料を基に、体を使って 密を避けながら のびのび取り組める素材体験活動を増やしていく。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前学年までの材料や用具についての経験と既習を重ねて、 新たな 用具を正しく安全に使うための基礎技術と、表現によつての使い分けができるよう、繰り返し習得させていくことに時間をかけていく。	身近な材料や場所などを基に発想してつくることのできるよう、教室以外の場も活用し学習環境に変化を持たせる。 発想するときに、 密を避けつつ、みんなで考えを共有できるような場面設定を行っていく。	進んで表現したり鑑賞したり、つくり出す喜びを味わえるような題材選びと、 友人と教え教わりながら 、目的や面白さ、学習ルールなどを共有できる活動を工夫し組み込んでいく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の表現に適した方法を選択したり、組み合わせたりして創造的な技能を総合的にはたらかせて表現できるよう、様々な材料や用具を揃え、試せる環境を充実させていく。	材料や場所の特徴を基に構成したり、自分が表したいことや伝えたいことを見つけて構想したりできるよう、作品により思い入れを持ちやすい題材を設定し、目的や用途に目を向けて考えさせていく。	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいこと、自分の表したいことを見つけて表せるよう、児童の 個々の テーマを持たせ、イメージと見通し（計画）を確認しながら活動できるようにする。

【⑧家庭科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・衣食住などに関する実践的・体験的な活動への関心は高く、技術面で個人差はあるものの実習に意欲的に取り組む児童が多かった。
- ・家庭での実践課題にはよく取り組んだ。家庭からの励ましを受けて意欲を高める児童も多かった。

(2) 課題

- ・生活経験や体験が乏しく、想像力が及ばないところが多々あるため、主体的に行動する、創意工夫を考えて行うことが難しい。擬似体験であっても、様々なことに挑戦し、経験を積ませることが重要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に合わせた技能習得の場を設定し、ICT教材を活用しながら指導を行う。 ・用語・用具の使い方も知識として習得させる。 ・実践的、体験的活動では、製作や調理などの実習に加え、観察・調査も取り入れ、実感を伴って理解できるようにする。 ・児童自らが課題を設定し、解決のため学習を進める問題解決型学習を行うことで、学んだ知識をより深く理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが豊かな発想をできるような授業環境を作る。 ・校内の清掃活動中の様子や給食の配膳時の盛りつけ方など児童の工夫を確実に見取り、賞賛の言葉かけをしたり、学級全体に紹介して広めたりする。 ・児童一人一人の考えを分類・整理して、課題解決の優先度に気付けるようにしたり、設定した条件の中で考えを選択したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分の知識や技能を生かせる学習の場を設定する。 ・家庭での生活を振り返り、家族の一員としての意識を高め、習得した知識を生活に生かせるような体験的学習を行わせる。 ・長期休業中を含め、家庭での実践を計画的に取り入れる。 ・児童が関心をもち、楽しく取り組んでいけるよう題材や資料などを工夫する。 ・各家庭で実践している調理や掃除の工夫をインタビューする活動を取り入れ、課題に関心をもって取り組めるようにする。

【⑨体育】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体の動かし方や運動の仕方を理解することで運動ができるようになってきた。
- ・めあてをはっきりさせて学習に取り組むことで、運動を楽しく行い、意欲的に活動できるようになってきた。
- ・グループで教え合ったり、励まし合ったりする関わり合いを重視することで、友だちと仲良くし、きまりや活動を工夫できるようになってきた。
- ・健康の大切さを認識し、手洗いやうがい、水分補給を実践できるようになってきた。

(2) 課題

- ・運動に意欲的に取り組む子とそうでない子の二極化していること。
- ・さらに、協力し合ったり公正な態度で運動を行ったりできるようにすること。
- ・日常的に運動を実施していない児童に運動を習慣化させること。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
その動きができるようにそれぞれの運動に楽しく取り組む。	簡単な遊び方を工夫できるようにする。	・めあてを明確にし、運動を楽しく行い、体を動かす楽しさを味わえるよう取り組む。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICTを活用し、健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにする。	自己の能力に適した課題をもち、めあてを達成できるようにするための活動を工夫できるようにする。	・めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動を楽しくできるように取り組む。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICTを活用し、心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解できるようにする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫できるようにする。	・めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、体力を高めるよう取り組む。